

平成28年3月17日

那須烏山市議会議長 佐藤昇市様

文教福祉常任委員会委員長 沼田邦彦

### 所管事務調査結果報告書

平成26年第3回6月定例会において本委員会が申し出を行った閉会中の継続調査の結果について、那須烏山市議会会議規則（平成17年那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により、次のとおり報告します。

#### 1 調査期間

平成26年6月10日から平成28年3月17日まで

#### 2 構成委員

沼田邦彦、滝口貴史、矢板清枝、樋山隆四郎、中山五男、小森幸雄

#### 3 調査事項

- 1 こどもの教育に関する事項
- 2 福祉・医療に関する事項
- 3 歴史・文化に関する事項
- 4 その他所管に属する事項

#### 4 調査結果

- ・平成26年10月16日に結婚相談員との意見交換を行った。活動されている相談員の方々の忌憚のない声を聞き、現状の問題と今後の課題について貴重な意見交換を行うことができた。少子化抑止策としても重要な事業であり、創意工夫を凝らし関係機関との連携のもと、本市の人口減少抑制に効果をあげられるよう期待したい。
- ・同日、学校給食センターについて現地視察を行った。徹底した衛生指導管理の下、業務が遂行されており、細心の注意を払った取り組みが行われていた。今後も児童生徒への安心安全な食の提供及び食育の推進に邁進されたい。
- ・平成26年11月10日に埼玉県秩父市役所において、ジオパークについての先進地視察研修を行った。秩父は関東でも先駆けてジオパークの認定を受けており、地形、土地利用状況、自然の景観など本市と似た部分が多く、認定に至るまでの経過、取り組み、認定後の各種分野における施策展開、特に民間の鉄道・バス会社を巻き込んだ着地型滞在型観光への誘客は大変参考になった。また、既存の施設等を工夫し有効利用する経費をかけない整備手法は、大いに学ぶべきところがあった。他のジオパークの調査研究を進めるとともに、他市にない本市ならではのものになるよう工夫を凝らした計画を立て取り組まれたい。
- ・平成26年11月11日に、山・鉾・屋台行事のユネスコ無形文化遺産登録について、日本三大曳山の一つである秩父夜祭の視察研修を行った。全国山・鉾・屋台保存連合会の事務局を担当している秩父市の担当者とユネスコ無形文化遺産登録に向け、文化

庁との連携、進捗状況、住民との協力体制、市職員の役割、登録後の課題取り組みについてなど詳細にわたり意見交換を行い有意義な研修となった。ユネスコ無形文化遺産の登録及び登録後の課題解決に向け、関係各所との連携及び調査研究をさらに進めることが必要であると感じた。

- 平成27年4月16日に、烏山城跡の現況視察を行った。烏山城は応永24年那須氏一族の沢村五郎資重によって築城されたといわれている。幕府の中心人物であった大久保常春侯が烏山城の殿様であったことを誇りに、大いにPRし、まちおこし、ふるさと創生に活かすべきと考える。
- 平成27年6月15日には、文化財保護審議会委員との意見交換を行った。市内の歴史文化財等に対して、貴重な意見・時間を共有することができた。歴史的な文化財の価値についても調査研究を進め、あるべき姿を想定した取り組みを進められることを期待する。
- 平成27年7月6日に、特別支援学校の「設置基準策定」を国に求める陳情を受け、南那須特別支援学校、荒川小学校、南那須中学校の視察研修を行った。南那須特別支援学校は知的障がい者を教育する小・中・高等部があり、児童生徒の増加に伴い、作業学習等で使用していた特別教室を普通教室として使用していた。荒川小学校には、知的と情緒計4クラスの特別支援学級があり、教室を分割するなどスペースの確保に苦慮しているところは見受けられたものの、学校独自の工夫により柔軟にきめ細やかな対応がなされていた。しかし、少子化の中で、支援を必要とする児童生徒の増加は見逃せず、行政と学校が一体となり対策を講ずる必要があると感じた。